

多様化する医学部受験  
医科大学附属高校という  
新たな選択肢



# 早くから医師を目指している 医師の家庭なら検討したい 大学附属高校からの「内部推薦制度」

子どもを医学部に進学させたいと考えている医師家庭は多いと思います。経済状況に左右されない安定性のある資格としての医師人気の高まりに加え、大学入試改革の影響により面接試験のウエイトが増すなど、入学へのハードルは高くなっています。そこで注目されるのが、医学部を持つ大学の附属高校からの内部進学という選択肢。親子で医師を目指す家庭にとって、進路選びの参考となる最新の医学部受験情報と医学部に内部進学できる大学附属高校について紹介します。



## 東大・京大よりも医学部へ

最難関大学の象徴である東大・京大に合格できる学力層が、あえて医学部医学科を第一志望に据える流れは、ここ数年でよりはっきりしてきました。背景には「学力の頂点＝理Ⅲ」という従来型の価値観だけでなく、将来のキャリア設計まで含めて合理的に判断する受験生・家庭が増えていることがあります。

医学部は、大学卒業後に医師免許という強固な資格が残り、地域や景気の影響を受けにくいことに加え、臨床・研究・行政・産業医など進路の幅が広く、人生のステージに応じて働き方を組み立てやすい点も魅力です。「長期的なキャリアの見通しやすさ」がAI活用が進む時代において、職業としての安定性と高度な専門性がより価値あるものとして意識されるようになり、医学部人気を一段と後押ししています。

また女子の医学部志願者が増加した影響も大きいと考えられます。2018年に複数の私立大学医学部で発覚した不正入試問題を機に、男女平等な入試が実施されるようになったことで、国公立・私立を問わず合格者・入学者の40%以上が女子というケースも珍しくありません。一部には過半数が女子という医学部医学科も存在します。実質的に存在していた男女の定員枠が外されたことで難易度が高止まりしている状況があります。

## 2026年度、私立大医学部の入試動向

2026年度入試は、受験人口・大学志願者全体が前

年並みの見込みで、医学科志望者も極端に増えている状況ではない—というのが大きな見立てです。一方で、受験方式別にみると変化があり、私立では共通テスト利用方式で志望者増が目立ちます。共通テスト利用方式が伸びる背景には、共通テスト得点を軸に出願戦略を組み立てる受験生が増えていること、そして複数校への出願が比較的しやすいことが挙げられます。

もう一つの重要トピックが、私立医学部の一次試験日程です。これまで一次試験を1月下旬に実施していた大学の一部が、2月上旬へ日程を遅らせる動きを見せています。すると何が起るのか。典型的には試験日のバッティング(重複)です。たとえば、杏林大が日程を遅らせることで、日本医科大と一次日程が重なり、北里大も日程変更により、順天堂大と重なります。「どちらか一方しか受験できない」ため、併願戦略は一気に難しくなります。受験生は学費や難易度だけでなく、日程の組み合わせでも合格可能性が変化する時代になっています。

さらに、学費引き下げや募集人員変更といった制度変更がある大学は、模試段階では見えにくくても、本番出願で志願が偏ることがあります。特に学費改定は、家庭の意思決定に直結しやすく、志願者増→難化につながりやすい傾向にあります。

## 私立医大医学部医学科の一般入試は 倍率が数十倍が当たり前の狭き門

医学部医学科是最難関領域であり、合格可能性を現実的に高めるには「到達目標の具体化」が欠かせませ

ん。河合塾の入試難易度予想(方式別ランク)は、各大学の難易度帯を俯瞰するのに有用で、私立大医学部医学科でも慶応義塾大が72.5、順天堂大(医A方式)、東京慈恵医科大、日本医科大、関西医科大が70.0と上位帯は引き続き高水準です。また、表1にあるように私立大医学部医学科の一般入試倍率は、帝京大の104.8倍、東海大の67.4倍など数十倍が当たり前という狭き門となっています。

また現在ではすべての医学部医学科で面接試験が導入されています。医学部入試の面接は、「話が上手いか」ではなく、「医師としての適性と覚悟があるか」を確認する場です。学力が一定水準に達している受験生が集まる以上、面接は合否を分ける現実的な要素になります。

面接試験では、①志望動機、②適正、③コミュニケーション、④将来目指す医師像—などを軸に評価が行われます。大学入試改革により2021年から「主体性」の評価が導入されたことで、特に面接のある医学部入試においては、部活動や生徒会活動、ボランティア活動など「高校生活をどう過ごしたか」という評価が重視される傾向にあり、非常に対策が難しくなっています。

## 9割が医学部に内部進学する附属高校

大学入試改革の影響による面接対策の重要性の高まりや新課程の影響など医学部入試を取り巻く状況を踏まえると、やや志願者数の増加率が鈍化したとはいえ、一般受験で合格を勝ち取るのは本当に至難の業です。そこで早くから医師を目指すことを決めている医師家庭に検討してほしいのが、医学部のある私立大学の附属高校からの内部推薦制度です。

内部進学の場合、一般入試に比べ試験科目が少なく、問題も解きやすいものが出題される傾向があり、入試のために費やす時間や労力は比較的軽いと言えます。

一方で、附属高校からの内部進学であっても医学部は狭き門であることに違いはありません。例えば私立最難関の慶應義塾大学医学部の場合、体育や音楽などを含めた全科目の評定平均が入学時から上位3%以内をキープすることが基準となっています。

しかし在校生の9割が医学部へ内部進学できる高校があります。全国で唯一の医科大学附属高校である川崎医科大学附属高等学校です。2025年度入試の受験者27人全員が内部推薦で医学部医学科へ進学していま

表1 私立大学医学部医学科一般入試倍率(2025年度)

大学名	募集定員	志願者数	倍率
愛知医大	約70人	2179人	31.1倍
岩手医大	73人	2271人	31.1倍
大阪医大(前期)	66人	1950人	29.5倍
金沢医大(前期)	72人	4160人	57.8倍
川崎医大	45人	1150人	25.6倍
関西医大(前期)	58人	1907人	32.9倍
北里大	75人	1891人	25.2倍
杏林大*	102人	2337人	22.9倍
近畿大(前期)	55人	1548人	28.1倍
国際医療福祉大	105人	2972人	28.3倍
埼玉医大(前期)	60人	2495人	41.6倍
産業医大(A)	約60人	1462人	24.4倍
順天堂大(A方式)	64人	2211人	34.5倍
昭和医大(I期)	83人	2723人	32.8倍
聖マリアンナ医大(前期)	約75人	3104人	41.4倍
帝京大	76人	7967人	104.8倍
東海大	60人	4042人	67.4倍
東京医大	70人	2686人	38.4倍
東邦大	67人	2178人	32.5倍
東北医大	75人	1728人	23.0倍
独協医大(前期)	52人	3415人	65.7倍
日本大(N方式第1期)	80人	2176人	27.2倍
日本医大(前期)	62人	1743人	28.1倍
兵庫医大A	67人	1983人	29.6倍
福岡大	60人	2593人	43.2倍

※各校HPを基に編集部作成

\*地域枠含む

表2 附属校からの医学部医学科内部進学者数(上位)

学校名(所在地)	男女・共学	卒業生数	医学科進学者数
川崎医科大学附属高等学校(岡山)	共学	28	27
慶應義塾高等学校(神奈川)	男子	735	22
東邦大学付属東邦高等学校(千葉)	共学	290	22
慶應義塾志木高等学校(埼玉)	男子	188	7
慶應義塾湘南藤沢高等部(神奈川)	共学	242	7
獨協高等学校(東京)	男子	228	6
東海大学付相模高等学校(神奈川)	共学	591	6

※各校HPを基に編集部作成

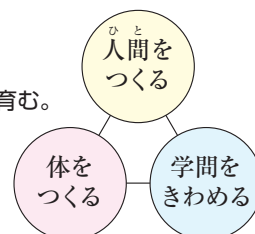
す(表2)。

川崎医科大学附属高等学校に入学するには、学力とともに良医になりたいという高い志が求められます。そして入学者全員が医師を目指すため、少数精鋭の全寮制を導入しており、医学部進学を想定したきめ細やかな早期医学教育が実践されているなど、高校生のころから医師に必要な基礎学力を身に付けることができるカリキュラムが揃っています。早くから医師を目指すことを決めている医師家庭にとっては、受験を検討する価値のある高校と言えるでしょう。



## 高校から歩み始める『良医』への道

知性と人間性を磨き、『良医』と呼ばれる医師の基礎を育む。それが私たち川崎医科大学附属高等学校の使命です。



難化が続く医学部受験において、選択肢として考えたのが、全国唯一の医科大学附属高校である川崎医科大学附属高等学校だ。推薦制度による同医科大学への進学率が平均で9割を超えている同校の竹田義宣校長に話を聞いた。

### 高校から歩み始める『良医』への道

——学校の特長について教えてください。

本校独自の教育プログラム「ドクターロード」です。本校は、創設者である川崎祐宣先生の「『良医』になるための人間教育を行う場として、医科大学と同時に附属高校を作らなくてはならない」という熱い思いを実現するために開校しました。ドクターロードは良医を育てるためのプログラムとして15年前から始まり、川崎医科大学と連携した全員参加型の体験型授業です。生徒たちが本物に触れ、本物を体験できる早期医学専門教育という性格を持ち、日本医学教育評価機構から高く評価されたと聞いています。

### 良医を目指すプログラム「ドクターロード」

——どのようなプログラムがあるのでしょうか。

プログラムは、医師へのインタビューや医科大学体験実習など「なぜ医師になるのか」「どんな医師になりたいのか」を考え、医学教育へのモチベーションを高めるような内容になっています。ドクターロードでは、医科大学の先生方が本気で後輩を育てようと向き合ってくれています。ある年の入学式で、生徒会長が新入生に歓迎の言葉として、「他校の生徒は3年間で

職業選択を考えます。本校は皆さん医師になる覚悟で入学していると思います。どんな医師になるのか、どんな人間になるのかを一緒に考えていきましょう」と述べたことがあります。ドクターロードを通じ、良医になるためのベースを身に付けている本校の生徒ならではの発言としてとても印象に残っています。——授業以外での特長はどこにありますか。

生徒全員が3年間同じ場所で生活をする全寮制ということです。寮は10畳の完全個室で2畳のウォークインクローゼットも完備しています。10年以上前の卒業生が一番驚くのが寮の環境の素晴らしさです。セキュリティ面も配慮されています。本校の寮は教育寮なので、舎監と寮職員が生活をともにしながら、3年間サポートします。入学時は中学を卒業したばかりで皆頼りなく見えますが、3年生になるころには心も体も本当に逞しくなります。共同生活の経験が生徒を大きく成長させるのだと思います。

### 総合判定型高校入試をスタート

——医科大学への推薦選抜について教えてください。

医科大学の募集要項に本校のみが対象の学校推薦型選抜の定員が明記されており、約30人の枠が例年確保されている点が特長です。推薦書には「医学を学ぶ能力と適性」という項目があるので、そこが重要になります。良医を目指すために9年一貫教育というシス



竹田義宣校長

### ■ 医師への夢を強力にサポートする川崎学園ネットワーク



テムをとっているのです。学力だけでなく、良医に必要な「知・徳・体」のバランスが大切になります。

——高校入試に特長はありますか。

一般入試及び専願入試(学科試験型)に加えて、昨年度から専願の総合判定型入試【専願】を導入しました。これは、提出書類及び面接によって強くアドミッション・ポリシーに合致している生徒を多面的・多角的に判定する入試です。10月の入試対策[実践編]及び11月の進学相談会への参加が必須です。特に、数学、英語の[実践編]に向けて基礎的な学力を十分身に付け、「良医」への志を高める生活を送って欲しいと考えています。

### 医師を目指す生徒にとって最高の環境

——受験生・保護者にメッセージをお願いします。

本校は全国で唯一の医科大学附属高校で、医師になる決意を持って入学してくる生徒にとっては最高の環境です。医科大学に必要な基礎学力を身に付けることができます。医師になるために集まった仲間たちとの3年間の寮生活を全うすることで、共感性や思いやり、協調性、コミュニケーション能力といった良医に欠かせない資質が育まれます。良医を目指す全国の受験生の入学を期待しています。

### 全国で唯一の医科大学附属高校

全国で唯一の医科大学附属高校という特長を生かし、本校では高等学校の3年間だけでなく、医科大学の6年間をも含めた「9年一貫教育」を実践しています。本校での3年間は『良医』という目標を意識した教育を展開します。医科大学での授業をはじめ、医学に対する基礎を固める充実した3年間を過ごすことで、その先の6年間の学びをより深く実りの多いものとしします。

### ■ 開校以来の川崎医科大学への進学率

90.4%

本校卒業生1,836人中、川崎医科大学への進学者は1,659人(2024年度卒業生まで)で、進学率は90.4%に達しています。\*他大学を含む医学部進学率 94.3%

### ■ 過去3年間(2023~2025年度)の川崎医科大学入試の倍率

附属高校からの学校推薦型選抜倍率

1.1倍

志願者数83人  
入学者数78人

一般選抜倍率

23.3倍

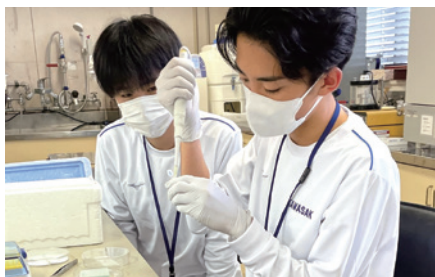
志願者数3,706人  
入学者数159人



医師へのインタビュー



川崎医科大学総合医療センター見学



医科大学体験実習



テーマスタディ

## 「良医」を目指す体験型授業 “ドクターロード”

医師は知識や技術だけでなく、その人格をも厳しく問われる職業です。本校では多彩な体験型の学びを取り入れた教育プログラムを実践。医学に関するさまざまな経験を通して、生徒一人ひとりの内面を磨き、『良医』となるための自覚を育みます。

### Doctor Roadの主なプログラム

1～3年次に実施している総合的な探究の時間が「Doctor Road (ドクターロード)」です。川崎医科大学や附属病院などで、医学に関する、横断的・総合的な学習を行うことを通して、「良医」を目指すためによりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成します。

現代医学教育博物館研修	現代医学教育博物館は、豊富な実物標本で現代医学の全般が学べる施設。1年次の1学期に施設で研修し、医学の歩みを学びます。
医師へのインタビュー	1年次に生徒自らが診療科を選択し、質問事項を考えて、川崎医科大学附属病院・川崎医科大学総合医療センター・川崎医科大学高齢者医療センターの医師に1対1でのインタビューを行います。
メディカルスクール・アワード	1・2年次に川崎医科大学の教員による高校生向けにアレンジした専門的で高度な授業を受けます。
3つの附属病院見学	1・2年次に川崎医科大学附属病院、川崎医科大学総合医療センター、川崎医科大学高齢者医療センターの最先端の医療機器や医療環境を見学します。
旭川荘研修	社会福祉法人旭川荘は障がい者・高齢者のための関連施設。2年次に施設での実地体験を行い、医療福祉の現状を学びます。
医科大学体験実習	2年次に2～3人のチームに分かれて、川崎医科大学の基礎・応用医学の研究室で解剖学や生理学などの体験実習を行い、実習レポートを作成します。
卒業生講話会	医師として地域医療で活躍している卒業生の本音の講演を聴きます。
テーマスタディ	2年次に3人前後のチームに分かれて、研究テーマを決め、調査や実験・観察を行い、発表します。医科大学の先生が審査員となり優秀なチームは表彰します。
医科大学入学前研修	医学への意識を高め、大学カリキュラムへ円滑に接続します。

### 3年間の表彰テーマ

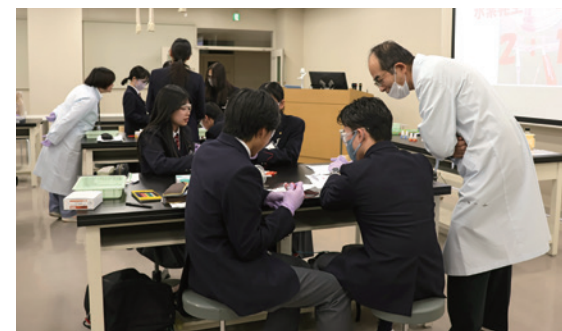
2023年度	最優秀賞 「視覚障がい者が楽しめる美観地区観光」 優秀賞 「低糖質食品のレシピ作成～おいしく手軽な蒸しパンを～」
2024年度	最優秀賞 「基礎医学の理解をサポートするカードゲームの開発について」 優秀賞 「子供向け津波教材を作ろう！～防災意識を高めるための教材作成」 優秀賞 「勉強して疲れた脳に必要なエネルギー源」
2025年度	最優秀賞 「グリシン添加が乳酸菌の増殖に与える影響」 最優秀賞 「川崎生のための英単語の暗記法」

テーマスタディで得た研究力を生かして、医科大学進学後、オックスフォード大学での研修に参加する卒業生もいます。

### 川崎医科大学 入学前研修

例年、川崎医科大学学校推薦型選抜に合格した附属高校生を対象に、医学への意識を高め、大学カリキュラムへ円滑に接続することを目的とした20日間・120時間程度の川崎医科大学入学前研修を実施しています。研修は、午前は附属高校、午後は医科大学において行われます。

特に14時間に及ぶ総合科学入門では、入学にあたっての心構えや、大学での学び方・計画について学び、world caféやチーム学習を実践しました。



大学での化学実験



学長講話

### 『数学・英語・理科』を重視した独自の教育プログラム

医科大学の進学を視野に入れた、本校独自の教育プログラムを構築。将来、医学を学ぶために重要な基礎となる数学・英語・理科に重点を置き、徹底指導していきます。数学は問題演習による応用力、英語は「読む・書く・聞く・話す」の総合的能力、理科は物理・化学・生物の3科目すべての大学入試レベルの学力の育成を行います。2022年度からは医科大学でも使用可能なタブレットを一人一台ずつ導入し、授業などで活用しています。



一人一台端末 (医大で使用するiPadを活用)

## 少人数制を導入、生徒一人ひとりに目が行き届く環境

### 少人数制

生徒一人ひとりの学習を着実に伸ばすために、少人数制を導入しています。生徒一人ひとりの習熟度を確かめながら、必要に応じて放課後や土曜日の補習、個別指導などきめ細やかな指導を行います。

### 授業時間外でも教員が個別に対応

本校には授業時間外でも勉強や進学について、いつでも教員に質問・相談できる環境があります。教員室の前にはホワイトボード、学習室には個別の学習スペースがあり、教員がその場ですぐに質問に答えたり、勉強を教えたりすることができます。疑問点をすぐに解決できるので、効率良く学習に取り組むことができます。



学習室



学習室での質問対応

男子寮



女子寮



## 仲間と過ごす全寮制の3年間で 自立心と協調性が育まれ、一人 ひとりが大きく成長



女子寮／玄関



男子寮／玄関

舎監・寮職員がともに生活しながら生徒を見守り、支えています。

本校は全寮制。寮は学校敷地内にあり男子寮と女子寮に分かれ、完全個室でプライバシーが守られています。全体集会ができるラウンジや共同キッチンなどを完備しています。校舎棟へは専用通路でつながっており、セキュリティも万全です。寮生同士がコミュニケーションをとるスペースとしてフロアごとに談話室があり、それぞれが自主性、協調性をしっかり育める環境を整えています。3年間で仲間とともに過ごす中で、生徒一人ひとりが自分と向き合い、仲間同士で励まし合いながら、「医師になる」という同じ目標に向かって前進しています。

### 共用施設

#### セキュリティシステムを完備し、 勉強に集中できる、快適で安全な環境

本校は寮と校舎棟が同じ敷地内にあり、便利で快適な環境のもと、規則正しい生活を送ることで勉強に集中することができます。寮では、舎監・寮職員が生活を見守り、生徒たちの毎日をきめ細かくサポート。施設設備もカードキーなど万全のセキュリティシステムを完備し、安全を確保しています。



セキュリティドア

オートロック式で不審者の侵入を阻止。いつ誰が通ったか記録が残ります。



売店

サービス棟にある高島屋の売店。文房具や軽食などを販売しています。

#### 食堂や売店を完備 学校生活を楽しく、便利にサポート

本校のサービス棟には食堂や売店（高島屋）を完備。友達とおしゃべりをしながらランチタイムを過ごしたり、毎日の生活に必要なものを購入したりすることができます。学校生活が快適で楽しく、便利に過ごせるようにサポートしています。



女子寮／個室

十分な広さを持つ個室は、集中して勉強できる快適な空間です。



寮の食事

食事は栄養士と調理師が管理し、生徒たちの健康をしっかりサポートしています。

## 部活動や学校行事などすべての 経験が将来の糧に

全人教育の一環として、本校では生徒全員が運動部に参加します。スポーツを通じて身体を鍛え、人間性を養うことは高校生にとっても、将来医師として活躍するためにも重要です。また、学校行事など仲間と共有する時間は、高校生活の大切な思い出となり、将来の大きな糧となるはずで。



広報誌「ikusaka」、「学年通信」

### ホームページ、広報誌「ikusaka」、「学年通信」で情報を発信

生徒たちの学びの様子、学校行事などのスクールライフをホームページ（「附属高校の今」等）や広報誌「ikusaka」、「学年通信」を活用して情報を発信しています。また、年3回実施する保護者懇談会で成績状況や指導方針を保護者へ伝えています。

### 健康な身体づくりと人間性の育成 運動部に生徒全員が参加

スポーツを通じての健康な身体づくりと豊かな人間性の育成を目指し、全員が運動部に所属しています。現在、テニス部、サッカー部、陸上部、バスケットボール部、剣道部、バドミントン部、バレーボール部の7つの部があり、授業後に活動を行っています。



部活動

運動部には生徒全員の参加を義務づけ。健康な身体と人間性を育みます。

### ■ 平日のタイムスケジュール



卒業生が語る「私の川崎医科大学附属高等学校」

附属高校卒業後、川崎医科大学で日々勉学に励む樋口湧人さん。高校3年間を通じて、学業・運動・芸術など幅広い分野に意欲的に取り組み、優れた才能を発揮。何事にも誠実かつ真摯に向き合い、自らの役割を確実に果たす姿勢は、周囲から厚い信頼を得ています。樋口さんが附属高校を目指したきっかけや高校生活について語っていただきました。

「医師になりたい」という思いを育むことができる

私は医師である両親の影響で、幼い頃から医師を志していました。当初は地元高校進学を考えていましたが、進路を再考することにしました。その際、両親から提案されたのが川崎医科大学附属高校です。医学部への高い進学率に加え、高校生のうちから医学に触れられる環境に魅力を感じ、入学を決意しました。

入学前は、初めての寮生活や学習面への不安がありましたが、実際に入学すると同じ目標を持つ仲間とすぐに打ち解けることができました。寮生活は毎日が修学旅行のような楽しさがあり、テスト前にはグループで勉強したり、学校が用意してくれた夜間学習を活用したりと、仲間と互いに高め合いながら受験まで走り抜けることができました。

附属高校の最大の魅力は、先生方の手厚い支援です。学習面だけでなく生活面でも一人ひとりに寄り添い、受験前には志願書の添削や面接練習まで徹底的に面倒を見てくださいます。一般的な高校では親に大きな負担がかかる受験準備も、附属高校では先生方が引率を含め全面的

にサポートして下さるため、生徒も親も安心して試験に臨める環境が整っています。

また、少人数制の環境は、対人能力を磨く絶好の場です。私は体育祭の団長を務めた際、他学年の生徒に指示を出したり、先生方と相談したりする経験を通じて、コミュニケーション力を養うことができました。2年次の「テーマスタディ」では『さまざまな液体中における終端速度の測定と考察』という研究発表をしましたが、スピーチや質疑応答でもこのコミュニケーション力が備わっていたと感じています。大学進学後に先輩や友人と協力して学習を進める際にも、附属高校で培ったコミュニケーション力は大きな財産となっています。

その他にも「メディカルスクール・アワー」では、第一線で活躍する医師の講義を受けることができます。高校生にも分かりやすい講義をされる先生方の姿から、将来医師として不可欠な「インフォームドコンセント（説明力）」の重要性を早期に学ぶことができました。

附属高校では早くから医学に触れる機会が多く、特に印象深かったのは、2年次の医科大学体験実習です。私は生理学教室で心エコーを体験し、実際に動く心臓を見て深く感動しました。この時感動した経験は、大学での膨大な勉強量に掛けそうになった時、「今の学びは医師になるための大切な過程だ」と自分に暗示をかけてくれる魔法のような力になっています。

このような附属高校での経験を通じて「医師になりたい」という強い思いを育むことができれば、困難を乗り越える大きな力となります。ぜひ附属高校で医学への興味を深め、コミュニケーション力をはじめとするヒューマンズムを高めて医大に進んでください。



医学への興味と学力が高まる環境。誰からも信頼される医師を目指す。

愛知県出身 高木 美波さん

代々医師の家系で両親も医師。父の知人に本校出身の医師がいて、同じ道に進むなら最適な環境と思い入学しました。現代医学教育博物館では病気の臓器標本や胎児模型を見学し、医学のリアルな面が学べました。生物の授業での血液の顕微鏡観察や解剖実験は医学への興味を高めてくれます。勉強に集中できる夜間一斉学習などで勉強量が増え、学力の向上を実感。知識を高め、人間性を磨いて、誰からも信頼される医師を目指します。



一足早く医学の学びに触れる。知識と人間性を備えた『良医』に。

岡山県出身 高尾 昂さん

川崎医科大学出身の父から、医師を目指すなら最適な環境と勧められ、自分でも考えた末に入学を決めました。ドクターロードのカリキュラムでは高校で一足早く医学について学べ、特に医師による講義では各診療科の内容や実務を詳しく知ることができ、大変勉強になりました。夜間一斉学習や日曜学習など集中して勉強に取り組めるシステムが整い、放課後先生に質問できることもありがたいです。知識と人間性を高め、人に寄り添う『良医』を目指します。



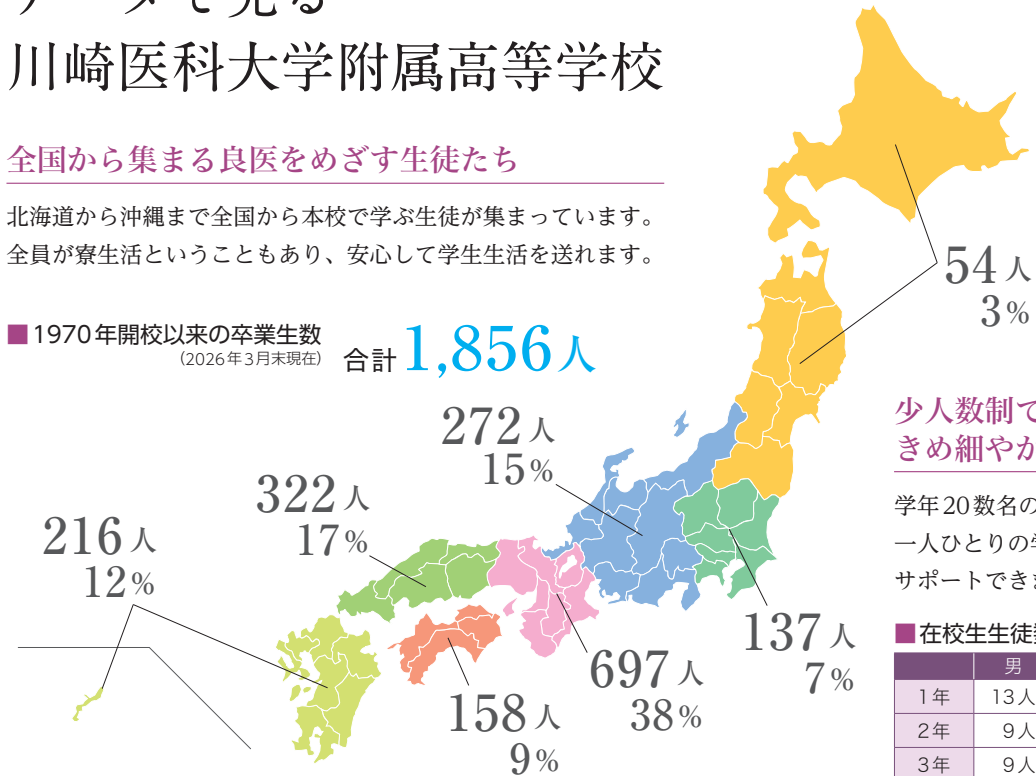
在校生から

データで見る川崎医科大学附属高等学校

全国から集まる良医をめざす生徒たち

北海道から沖縄まで全国から本校で学ぶ生徒が集まっています。全員が寮生活ということもあり、安心して学生生活を送れます。

1970年開校以来の卒業生数 (2026年3月末現在) 合計 1,856人



少人数制で きめ細やかな対応

学年20数名の少人数制により、一人ひとりの学習をきめ細かくサポートできます。

■ 在校生生徒数 (2025年度現在)

	男	女	合計
1年	13人	14人	27人
2年	9人	11人	20人
3年	9人	11人	20人

川崎医科大学附属高等学校の施設

本校キャンパスは市街地から少し離れた豊かな自然の中にあり、静かな環境で勉強に集中することができます。また主要な施設は通路でつながっており、移動のたびに外に出ることはなく、安心安全な学校生活を送ることができます。

- 校舎棟
- サービス棟
- グラウンド
- 体育施設
- 男子寮
- 女子寮



渡り廊下

同一敷地内にある寮から校舎棟まで通路でつながっているため、登下校も安心。



図書室

約2万5千冊の書籍を収蔵しており、医学系の書物が充実。また医大図書館からの取り寄せも可能。

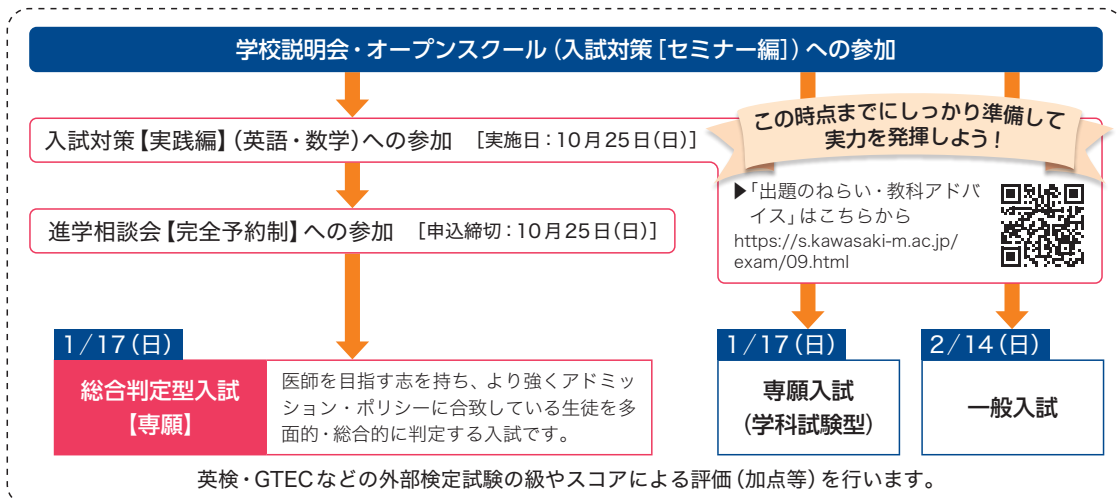


校舎棟マルチメディア教室



体育館

## 川崎医科大学附属高校 令和9年度 専願入試・一般入試までの日程



## 2026年度 川崎医科大学附属高等学校イベントのご案内

イベント名	日付	時間	都道府県	会場
学校説明会	5月10日(日)	① 10:00～12:30	東京	東京コンファレンスセンター・品川
		② 14:00～16:30	福岡	TKPガーデンシティ博多新幹線口
	5月17日(日)	14:00～16:30	愛知	TKPガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口
		14:00～16:30	大阪	新大阪丸ビル別館
第1回オープンスクール 【入試対策[セミナー編]実施】	7月19日(日)			
第2回オープンスクール 【入試対策[セミナー編]実施】	8月23日(日)	10:00～15:00	岡山	川崎医科大学附属高等学校(倉敷市)
第3回オープンスクール 【入試対策[実践編]実施】	10月25日(日)			
学校説明会 【入試対策[実践編]実施】	10月25日(日)	10:00～12:40	東京	東京コンファレンスセンター・品川 ※本校第3回オープンスクール同時開催
進学相談会【完全予約制】 参加申込締切: 10月25日(日)	11月21日(土)	15:00～18:00	東京	東京コンファレンスセンター・品川
	11月22日(日)	9:30～15:00		
	11月21日(土)	15:00～18:00	岡山	川崎医療短期大学(岡山市)
	11月22日(日)	9:30～18:00		
学校見学会	11月23日(月)	10:30～12:30	岡山	川崎医科大学附属高等学校(倉敷市)
	12月25日(金)	10:30～12:30		

(お願ひ)スムーズにご案内させていただくため、進学相談会以外のイベントも参加予約をお願ひします。また、今後日程が変更になる場合があります。最新情報は本校Webサイトでご確認ください。

「親子で医師の道へ  
ファミリートーク」  
は公式サイトでご覧いただけます。



全国で唯一の医科大学附属高等学校

**川崎医科大学附属高等学校**

〒710-0002 岡山県倉敷市生坂1661

TEL (086) 462-3666

### ■ 本校へのアクセス

- \* 岡山空港経由
  - ・空港よりタクシーで約40分
- \* JR 経由
  - ・岡山駅よりタクシーで約40分
  - ・中庄駅よりタクシーで約10分
  - ・倉敷駅よりタクシーで約15分
- \* 山陽自動車道経由
  - ・倉敷I.C. から約3分

イベント参加申込は  
こちらから



最新情報は  
こちらから

